

トンガ・エウア島におけるライフスタイルに配慮した NCD 対策の可能性と課題

1155004 芦田華

指導教員 藤掛洋子

【背景と目的】近年トンガではライフスタイルの変化により NCD が大きな問題となっており、特に首都ヌクアロファにおいてその傾向は高いと言われてきた。しかしながら、実際は離島エウアにおいても既に首都と同レベルで NCD 患者は増加している。

それらを背景に、横浜国立大×JICA の大学連携案件が 5 か年計画で設立され、私はその案件の 1 人目のボランティア（職種：家政・生活改善）として、2014 年 7 月から 10 月、トンガ王国・エウア島で NCD 対策の活動を行った。

そこで JICA の要請内容やトンガで既に行われている NCD 対策に感じた疑問や、首都ヌクアロファと離島エウアでは住民の生活習慣は大きく異なり、モノやサービスへのアクセスにも大きな格差があるが、エウアのためのプロジェクトやエウアに焦点の当てられた研究が少ないことを考慮して、エウア的环境や生活習慣にもとづいた NCD 対策を考察することが必要であると考えた。

本研究では、①エウア住民の NCD の要因、②エウアで行われている NCD 対策とその成果の 2 点を明らかにすることで NCD 対策の現状と課題を分析し、今後の NCD 対策がどうあるべきか、ボランティアの視点から考察することを目的とする。

【方法】エウアの女性を対象に、食生活に関するアンケートを 29 名、健康診断を 75 名に実施。その他聞き取り調査数名、資料による情報収集。

【結果及び考察】

1) トンガにおける NCD の要因

①食生活の変化：イモ、ココナツ、魚介類の 3 種のキーフーズ(足立, 1996)を含む伝統的な食物摂取の減少に伴う栄養素摂取の不足を、近代的な食物の増加が十分に補足するに至っていないことが NCD 問題の要因へと繋がっている。②身体活動の低下：首都と比較して伝統的な性別役割分業が根強く残っており女性の肥満に繋がっている。自動車の普及と相乗りの文化により身体活動レベルが低下した。③喫煙：喫煙が健康に及ぼす影響は広

く知られており、また政府がたばこ税を増税したためにエウアでは大きな危険因子ではないと考える。④飲酒・カバ：酒を購入できる店が 1 店舗しかないため飲酒者は少ないが若者を中心に広まりつつあるようだ。カバは男性の間で広く飲まれている。⑤トンガ人の身体観・健康観：伝統的身体観・健康観は西洋的なものへと変化しつつあるが、未だ肥満に寛容で病気に罹ることに抵抗が少ない。⑥健康に関する知識の情報源：首都と比較して英語を理解できない人が多い。インターネットにアクセスできる人が少ない。

2) エウアにおける NCD 対策

トンガでは、NCD に関わる様々な団体からなる国家 NCD 委員会で、協議を行い対策が決められている。「健康的な食事」に関しては、主にトンガヘルスと農業省が、「1 日 5 種類の野菜や果物の摂取」を目標にプロジェクトを行っている。農業省では、女性開発普及員を各地に配置し、家庭菜園の推奨を行っており、JICA もボランティアにそれを支援するような案件を出している。しかしながら、背景のことなるエウアでは、首都ヌクアロファと比較し野菜の供給量が非常に限定されており、プロジェクトは順調とは言えない。その他の危険因子に関してもエウアではプログラム数が少なく、また首都とは異なるエウア住民のライフスタイルが考慮されていないため効果的な対策が行われていない。

【結論】1) 離島エウアでも NCD は大きな問題であるが、その背景は首都ヌクアロファと異なる。

2) トンガで行われている NCD 対策はトップダウン方式であり、エウア等の離島においては不十分である。エウアのライフスタイルに十分考慮した対策は現在ほぼ行われていない。

今後のエウアの NCD 対策では、①島の特性や住民のライフスタイル、②ジェンダー配慮、③組織やコミュニティの運営能力に留意して、トンガヘルスや各省の本部からのトップダウンではなく、現地の職員やボランティア、島民によるボトムアップ方式で NCD 対策を行うことが重要である。

